

所員自著紹介

1. 『占領空間のなかの文学 痕跡・寓意・差異』
2. 日高昭二
3. 岩波書店
4. 2015年1月20日発行
5. 292ページ

本書は、第二次大戦後におけるアメリカによる占領の記憶を文学テキストのなかにたどったものである。第一部「占領空間」の文学は、占領期の諸問題として浮上した政治犯釈放、新憲法発布、特殊慰安施設 (RAA)、検閲、朝鮮戦争、イーグル旋風、人民裁判、公職追放、警察予備隊、再軍備などを時系列に沿って論じ、またGHQによるホテルや劇場の接收、MPの活動、日本語のローマ字化、混血児、戦争花嫁などを、まさに「占領」に伴うさまざまな「物語」として追跡している。

第二部「帝国」への視野」では、戦時中に南方に「徴用」された井伏鱒二と、「江戸」に留学していたという石川淳の二人をとりあげ、それぞれの「帝国」をめぐる記憶と表象のゆくえを追っている。また第三部「占領」への通路」では、まず「座談会」における言説の諸相を渉猟し、このとき人々は何を語っていたかに焦点を合わせた。次いで松川事件、チャタレイ裁判、「風流夢譚」事件など、占領期に顕現した事件とその後を射程に収めつつ、それが現在にどう及んでいるかについて論じている。さらに「付」として「占領期「検閲」論・略史」を掲げて、このところ話題になっている「検閲」の研究史を素描している。

まさしく戦後七〇年を迎えたこの年、いまだに生成変化してやまない歴史の母体の一つであるとも言えるべき「占領空間」は、その確かな痕跡をたどり直すことによって、改めて文学表象の意味を再認・想起する契機になれば、という強い思いで上梓されたものである。

(日高昭二)

1. 書名：*State and Finance in the Philippines, 1898-1941: The Mismanagement of an American Colony*
2. 著者：Yoshiko Nagano
3. 出版社：Ateneo de Manila University Press (Philippines); National University of Singapore Press (Singapore)
4. 出版年月：フィリピン版：2015年2月、シンガポール版：2015年5月
5. 頁数：248頁

本書は、アメリカ植民地期における近代的銀行業の展開過程を念頭におきながら、第一次世界大戦直後にフィリピンを襲った金融危機の全容を解明すべく、アメリカのフィリピン統治体制の特質をも視野に入れたうえで包括的議論を展開する試みである。本書を編むにあたって筆者が一貫して志したことは、従来の研究で「第一次世界大戦直後のフィリピン国立銀行疑獄」という枠組で捉えられてきた一連の事象が、じつは「第一次世界大戦直後のフィリピン金融危機」として理解すべきであるということ、一次資料を渉猟しつつ実証することにある。

「第一次世界大戦直後のフィリピン国立銀行疑獄」として社会通念化してきた「第一次世界大戦直後のフィリピン金融危機」は、アメリカ植民地期フィリピン統治体制の根幹に関わる重大問題であった。一九一九～二二年のフィリピン金融危機のひとつの原因がフィリピン国立銀行経営をめぐる政官財の腐敗した癒着構造にあるとすれば、もうひとつの原因は、ワシントンの米国陸軍省島嶼地域担当局が立案した、金本位基金と銀証券準備の通貨準備危機への統合という、金為替本位制の維持に相反する政策の導入にあった。したがって、一九一九～二二年のフィリピン金融危機があくまで「金融危機」としてフィリピン社会で公にされれば、フィリピン立法議会に対してアメリカ

人行政官に対する批判を展開する格好の材料を与えることになりかねない。それはアメリカ政府のフィリピン植民地経営の基盤を揺るがす事態に発展する可能性をもはらんでいたのである。

(永野善子)

1. 『ワーキングガールのアメリカ 大衆恋愛小説の文化史』
2. 山口ヨシ子
3. 彩流社
4. 2015年10月31日発行
5. 192ページ

本書は、前書『ダイムノヴェルのアメリカ 大衆小説の文化史』(二〇一三年、彩流社)の最終章「ワーキングガールから遺産相続人へ ローラ・ジーン・リビーの恋愛小説をめぐる」に続く研究として、「ワーキングガール」の物語を分析したものである。「ワーキングガール」とは、南北戦争後のアメリカで労働現場に大挙駆りだされた若い未婚の白人女性労働者のことである。彼女たちは、性差別が横行する製造工場などで長時間労働を強いられながらも生きるために必要な最低賃金さえ支払われないという過酷な状況下におかれていた。

南北戦争後、労働市場への女性の参入が記録的に増えた理由は、戦争によって失われた労働力を補充する役目を女性が担う必要があったことに加えて、製造過程における機械化が進んだことで、それまで男性が専門的訓練を受けて担っていた仕事が未経験の女性にもできるようになったためである。十九世紀後半のアメリカでは、ワーキングガールの大量出現が、社会の顕著な現象として認識されるようになったのである。

このような社会現象は、出版業界にも大きな影響を与えることになった。長時間の単純労働に従事していた若い女性労働者をターゲットとする文学が興隆したのである。若い女性労働者をおもな読者とする読物が、ニューヨークを中心とする大衆小説出版界の人気商品となり、スター作家も誕生するにいたっている。とくにローラ・ジーン・リビーは、貧しいワーキングガールのヒロインが

金持ちのハンサムな男性と結ばれる恋愛小説を書いて人気を博し、「プロレタリアートの女子言師」という異名を獲得するにいたっている。

社会の底辺で過酷な人生に直面していた若い女性労働者に人気を博したりビーのワーキングガールの物語は、どのような特徴をもち、どのような先行作品の影響を受けて生みだされたのか。リビーの恋愛小説は、ワーキングガールにどのように読まれたか。とくに英語を母語としない「移民」の少女たちにはいかなる意味をもっていたのか。セオドア・ドライサーの『シスター・キャリー』など、二十世紀の文学史で正典とみなされた作品にもワーキングガールが登場するが、それらとリビーらのワーキングガールの物語にはどのような類似や差異がみられるのか。本書は、貧しい女性労働者が愛読したワーキングガールをヒロインとする読物をめぐるこれらの問題を明らかにしようとするものである。

(山口ヨシ子)

1. 書名：『ラテンアメリカ 1968年論』
2. 著者：小倉英敏
3. 出版社：新泉社
4. 出版年月：2015年11月15日
5. ページ数：403頁

近年、新興諸国や途上諸国において「新中間層」とくに「新中間下層」の増加現象が見られ、今後の世界経済の行方は、この「新中間下層」が定着し、さらに発展できるかどうかにかかっていると議論も聞かれる。他方、先進諸国においては、「新自由主義」経済モデルの下で非正規労働者が増加するなど中間層の下方分解が生じて貧困層に転落する傾向も生じている。2015年には中国経済の減速が顕著になり、世界経済の中短期的な見通しに不安要素も見られるようになっているが、各国ともに経済成長の回復・維持のために「中間層」対策を重視した政策をとる傾向にある。

先進諸国においては主に1960年代に、戦後経済復興の延長線上で達成された経済成長の結果として「中間層」の増加現象が生じ、これを背景として1968年に「中間層」の若者たちによる『若

者の叛乱』とも呼ばれた現象が生じた。

このような「中間層」の動向は、先進諸国においてのみ生じたわけではなく、周辺・途上地域においても、大規模な「街頭騒動」の形はとらなかつたものの、「中間層」と主役とした種々の社会現象が発生した。しかし、「1968年論」を展開している論者たちの視野に入っているのは先進資本主義諸国であり、周辺・途上諸国にも共通した現象があったことに関する検証はあまり見られない。

ラテンアメリカにおいては、「街頭騒動」が発生したメキシコをはじめ、「変革」志向の軍事クーデターが発生したペルーとパナマ、一部知識人の体制離反がおきかけたキューバ、人民連合政権成立に向けた政治変動が生じたチリなど、ラテンアメリカ諸国でも1968年には「中間層」の動向を背景とした種々の現象が見られた。

本書は、これらの現象を「世界システム」の過程の中で生じた出来事と捉え、グローバル・ヒストリーの再編成の作業の中に位置づけなおすことを目指した。

(小倉英敬)

ときに使われることが推定された。

一方、「言語文脈領域から共有知識領域への転送原則」の違いによって、目の前に聞き手がいる「対話モード」においては、両言語の文脈指示詞的用法も異なる振る舞いを示している。日本語の場合には、話し手の発話によって聞き手の言語文脈領域にコピーされた談話指示子とその属性情報は、談話セッションが終わってしかるべき時間が経過した後、共有知識領域へ転送されることになる。ただし、しかるべき時間が経過していなければ、聞き手の共有知識領域に談話指示子とその属性情報が転送されず、もちろんそれにアクセスすることもできない。このため、聞き手は自分の言語文脈領域にコピーされた談話指示子とその属性情報をデフォルトのソで指すほかない。その一方、中国語では時間とは関係なく、聞き手の言語文脈領域に新たに登録された談話指示子とその属性情報は、直ちにその共有知識領域にも転送される。したがって、聞き手はいつでもそれを利用できるため、「这」を用いることができると考えられる。

(劉羸)

1. 書名 『談話空間における文脈指示』
2. 著者 劉羸
3. 出版社 京都大学学術出版会
4. 出版年月 2015年2月
5. ページ数 174頁

本研究は日本語と中国語の文脈指示詞の「コ・ソ」、「这・那」に関する問題の解決に向けて、「語りのモード」「情報伝達モード」および「対話モード」の観点から考察を行った。その結果、「語りのモード」と「情報伝達モード」では両言語の文脈指示的用法はよく似ていることが判明した。具体的には、ソと「那」は話し手が自分のみ保有している属性情報を利用せず、聞き手との共通の言語文脈領域に登録済みの談話指示子に新たな属性情報をアップデートするために用いられる。コと「这」は、話し手が情報の占有者として談話を構成している場合、自らの共有知識領域に予め格納されたより豊かな属性情報を利用しながら、言語文脈領域に登録された談話指示子を指す